

# 京都市立養正小学校 学校ニュース 学校評価 平成29年11月20日

校長 杉森 徳行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp  
学校教育目標 「子どもの良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進」

## 学校評価の結果について

7月に、全校児童（低学年〈1, 2年〉、高学年〈3, 4, 5, 6年〉に分類）、保護者、教職員に学校評価のアンケートをしました。児童のアンケートは、学校での学習や約束のこと、生活習慣のことなど25項目、保護者、教職員には、子どものこと、学校のこと25項目について質問しました。アンケート結果を基に考察し、これまでの成果と課題についてお知らせします。

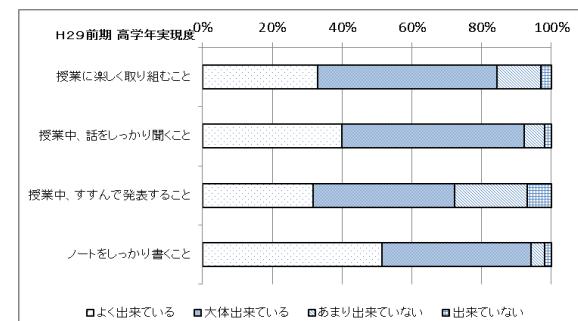
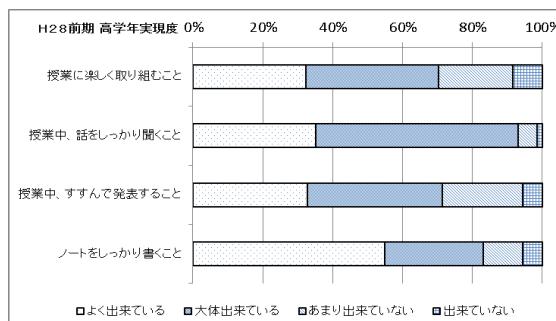
それぞれの項目について、重要度、実現度を回答してもらいました。（低学年児童は、実現度のみ）以下、グラフ等では、それぞれの質問に対する選択肢を次のとおりに示しています。

重要度：A 重要である B やや重要である C あまり重要でない D 重要ではない

実現度：A よく出来ている B 大体出来ている C あまり出来ていない D 出来ていない E わからない

## 学習面について

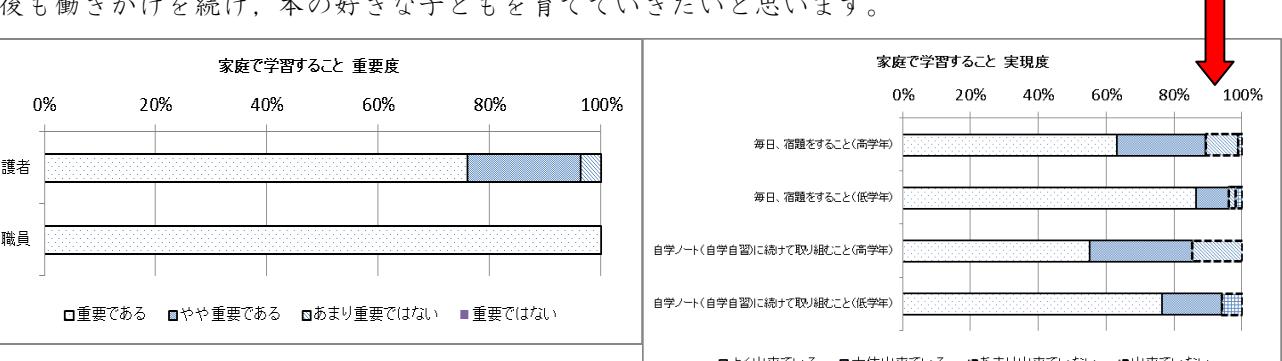
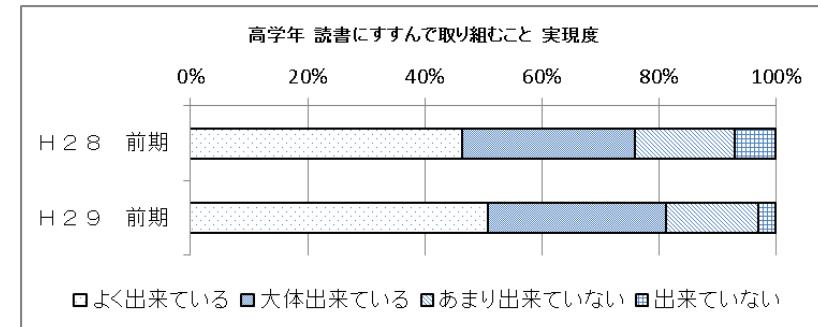
養正小学校では、『進んで考え、表現する子』の育成をめざして、日々の授業を大切にしています。学習に対する関心や意欲を維持するためには、基礎的基本的な知識や技能の習得が欠かせません。粘り強く考えたり取り組んだりする場面を授業の中でも大切にしています。また、今年度は、読んだり聞いたりしたことの内容を理解し、それをもとに考え、それについての自分の思いや考えを筋道立てて伝える力を育んでいきたいと考えています。そのためにも、授業だけではなく学校生活全般にわたって、『言葉の力』を身に付けることに力を入れています。



上記のグラフは、昨年度と今年度の高学年の学習についての項目を比較したグラフです。本校の児童は学習に意欲をもって取り組み、話をしっかりと聞き、ノートを取ることはできているが、発表に対しては苦手意識を持っている子が多いという傾向は続いている。ただ、数値を詳しく見ると、「授業に楽しく取り組むこと」は14.1ポイント、「ノートをしっかりと書くこと」は11.1ポイント上がっています。これは、子どもたちが授業に真剣に取り組んでいる姿を反映していると考えられます。

学習面での保護者のニーズ度が一番高かったのは、昨年度に引き続き「読書にすすんで取り組むこと」でした。保護者の方々には子どもが読書をしている姿がなかなか見受けられないようですが、子どもたちのアンケートからは少し違った様子が見られました。昨年度と比べると少しですが「よく出来ている」「大体出来ている」と答えている子どもが増えています。

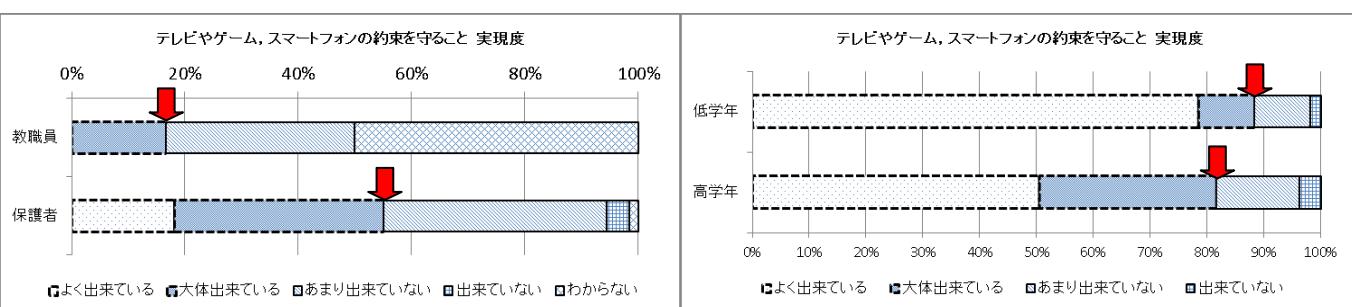
ニーズ度：  
重要度に対して実現度が低いとき、ニーズ度が高いと表現します。（こうあって欲しいのだが、できていない状態）



保護者の96.4%、教職員の100%が「重要である」「やや重要である」としている「家庭で学習すること」について、高学年も低学年も「あまり出来ていない」「出来ていない」と答えている子どもが5~15%います。基礎基本の知識・技能の習得には毎日の繰り返しの学習が必要不可欠です。学校での働きかけをたゆまず行うことと、保護者の方々と連絡を取り合い、子どもたちの学習習慣の定着に力を入れていきたいと考えます。

## 規範意識について

次のグラフは、「テレビやゲーム、スマートフォンの約束を守ること」についての実現度のグラフです。このグラフを見ると、大人と子どもに大きな意識のずれがあります。大人は約束を守っているという認識が低いのですが、多くの子どもたちが守れていると答えています。

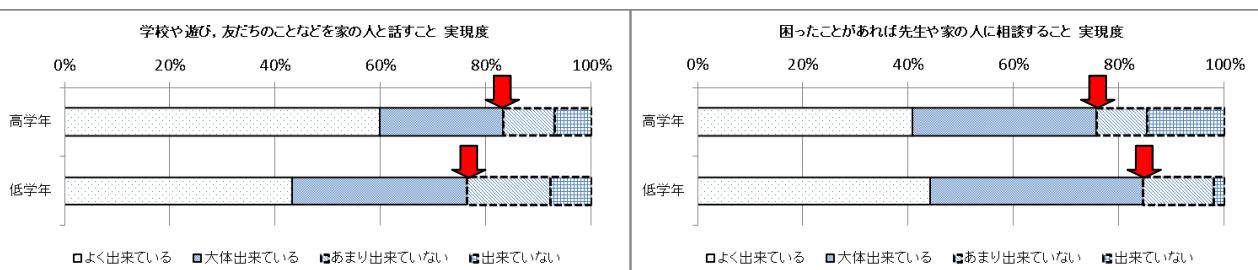
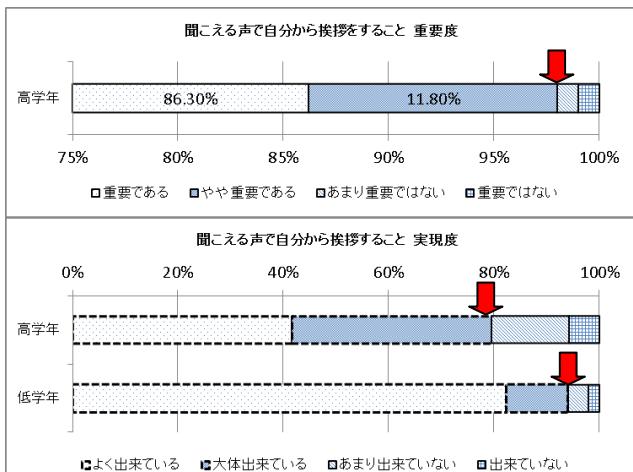


この結果は、大人として少し危機感を感じます。同じ約束について、一方は「守っている」と思い、もう一方は「守っていない」と思っているということです。つまり、約束の解釈が双方で食い違っている可能性があると考えられます。「宿題が終わってから寝るまで」という約束では、子どもは眠り込むまで布団の中で使用することも構わないと解釈するかもしれません。

以下はスマートフォン事情に詳しい京都府警から教育委員会に派遣されておられる担当課長のお話を伝えたいと思います。2017年スマホの利用実態は、小学生の60%・中学生の80%が持っているようです。子どもたちはスマホの危険にさらされているのです。友人とのトラブルや知らない人のトラブル、有害情報の入手、收拾不能な情報の拡散、またスマホ依存症になると睡眠不足や生活環境への悪影響など多くの危険があります。特に、コミュニケーション力の未熟な子どもたちは、SNS依存症になりやすく、分かっていてもストップの効かない状態になるようです。通信技術が日々向上しているので、技術で子どもを守ることは不可能になってきています。使い方の約束やルールで子どもを守ることが大切です。効果的なルールの例としては、①リビング（家族がいるところ）で使用する②寝室・トイレ・風呂場では使わない③目の前にいる相手に言えないことは書き込まない④自分や友だちの人前に出せない写真は撮ったり撮られたり、送ったり送られたりしない…などです。ルールについて親子で話し合う習慣があると、万一手帳に巻き込まれたとき、すぐに対応できることにつながります。ルールは自分を守るためにあるということをスマホ世代の子どもたちに教えていくことが大切です。

### 生活面について

6月の学校ニュースでもお知らせしましたが、4月以降「あいさつ」についての意識がとても高くなってきました。「立ち止まって挨拶をするといいですね」という学校長の一言から広がった習慣です。そして児童会も「あいさつ運動」に取り組み、朝の正門では子どもたちの元気な挨拶の声が交わされるようになりました。褒められることによって子どもたちの意識が高まり、実践につながっていったのです。今後も習慣として子どもたちの身に付くよう励ましていきたいと思います。

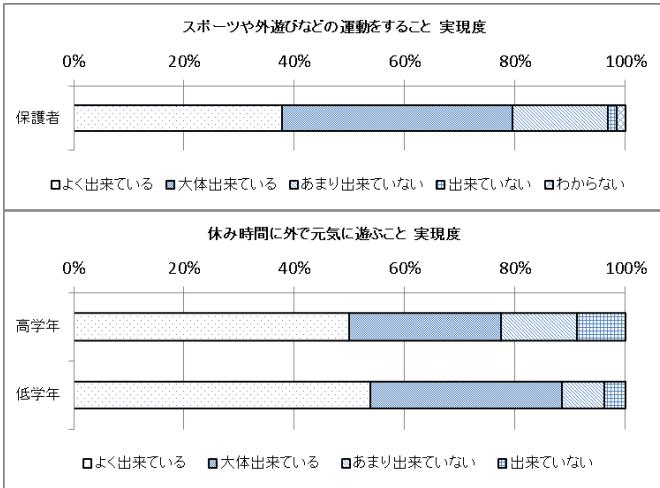


上のグラフは、低学年と高学年の特徴がよく表れている項目です。高学年では、普段家人と話すことができない割合が16.7%であるのに対し、困ったことについて家人や先生に相談していない割合が24.3%に増えています。逆に、低学年では23.5%から15.4%に減っています。低学

年では、普段話せていないことがあっても困ったことは先生や家人に相談している割合が増えているのに対し、思春期を迎える高学年では、なかなか困ったことを相談しづらい気持ちになることがよく分かります。学校では、年に2回のいじめアンケートの結果をもとに児童面談を実施し、子どもと担任が1対1で話し合う機会を設けています。また、普段の子どもたちの様子や話からも気になることは見過ごさず、規範意識や人権感覚を育てる指導を続けていきたいと考えています。

### 健康について

右のグラフはスポーツや外遊びに関する項目の結果です。近年、子どもの体力低下が言われていますが、本校の子どもたちは比較的外遊びを好む子が多いようです。しかし、運動する子としない子の二極化が見受けられます。子どもたちを取り巻く環境の変化（時間・空間・仲間の減少）や不規則な生活習慣が原因と考えられます。そこで、今年度は「ロング昼休み」を導入し、外遊びへの関心を高める働きかけを行っています。



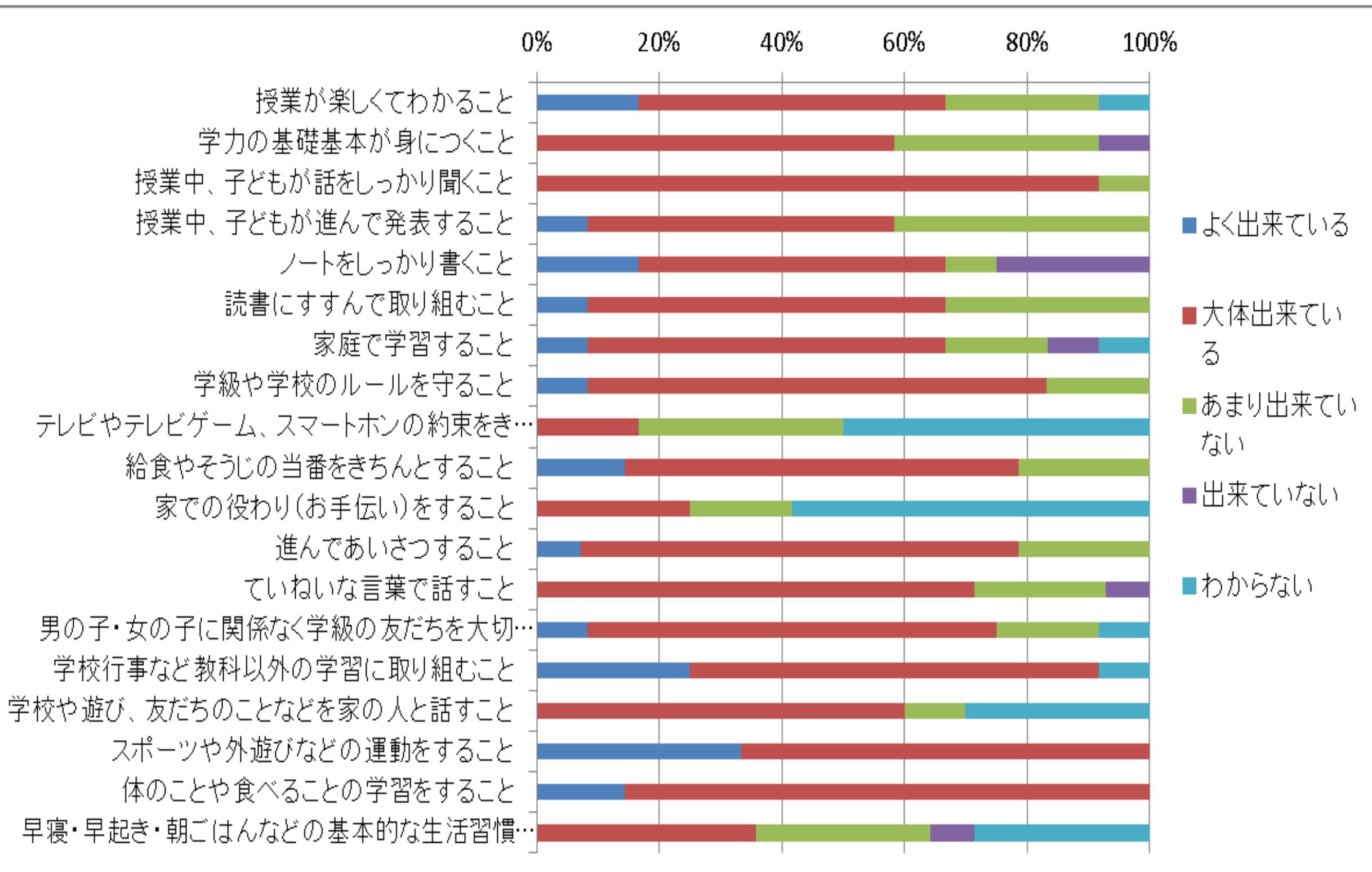
また、「早寝早起きをすること」は高学年のニーズ度の1位でした。高学年になると学習の課題も多くなりますが、一日の中での時間の有効な使い方を考え、生活習慣を正すことは、ストレスに立ち向かうたくましい体や柔軟な心を育てるのに最も大切なことと思われます。今後も、主体的に健康づくりを進める子どもを育てる取組を継続していきたいと思います。

### 学校運営協議会より

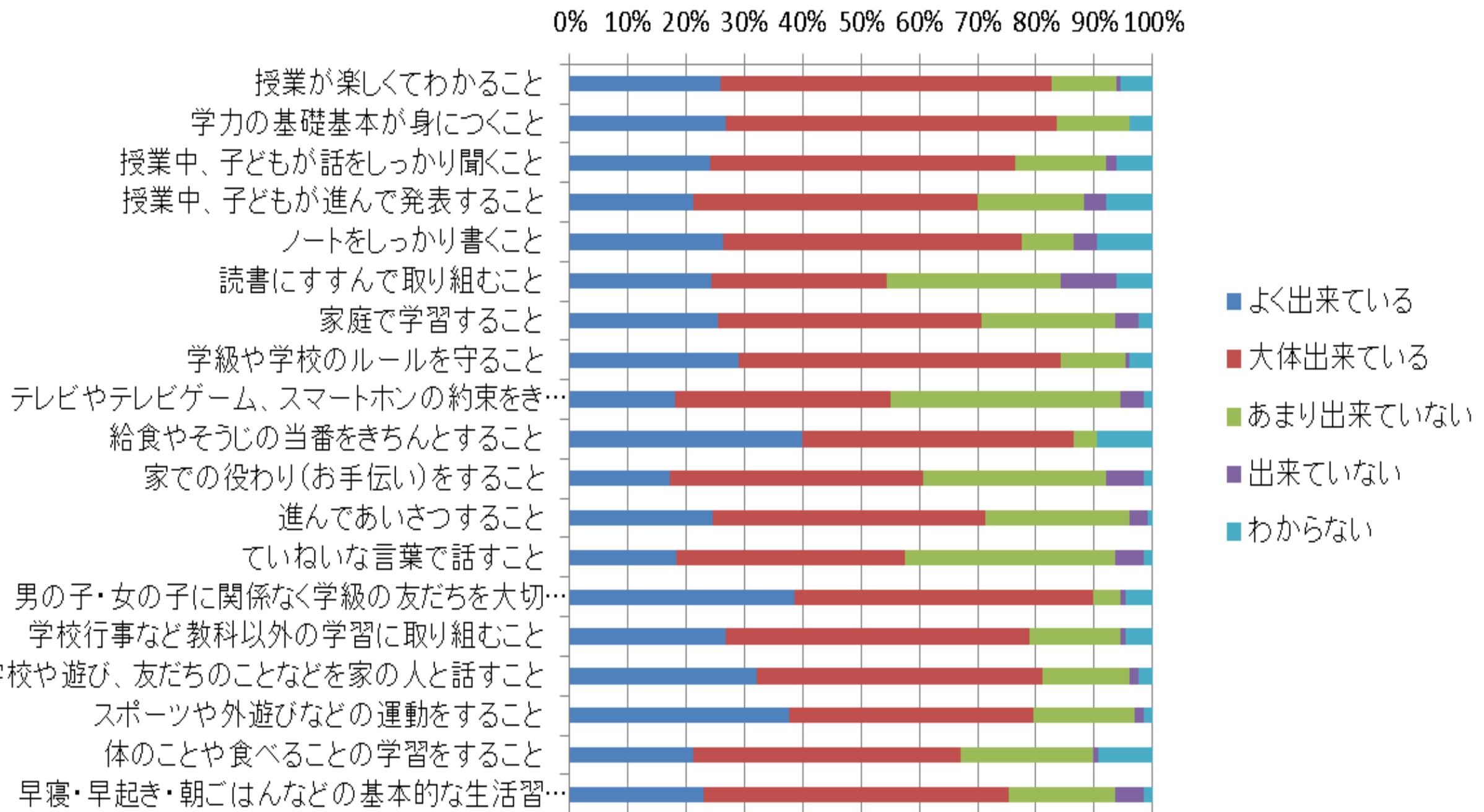
学校運営協議会では、読書や家庭学習、スマートフォンの使い方など様々なことについて話題になりました。学校では、週に2回学校司書の先生に来ていただき、図書の整理や教材の活用、担任へのアドバイス、子どもたちへの読み聞かせなどをしてもらっています。読んだ本をどんどん記録していく読書ノートの取組などと合わせて、子どもへの働きかけをしていきたいと考えています。また、与えられた課題はできるが、自分で考えて必要なことを自分から学ぶことは大人でも難しいので、家庭学習での自学自習の習慣は大切だという意見をいただきました。アンケートでは、ゲーム・携帯電話・スマホが遊びの手段として捉えられているが、スマホは学びの情報を得ることもできるのではないかという話も出ました。

アンケートでは全体の傾向は捉えられるが、一人一人に焦点を当て、個人の伸びを大切にしてほしいという意見もいただきました。学校では、これからも個々を見ていく視点を大切にし、一人一人の良いところを伸ばしつつ、課題についてもきめ細かく指導していきたいと考えています。

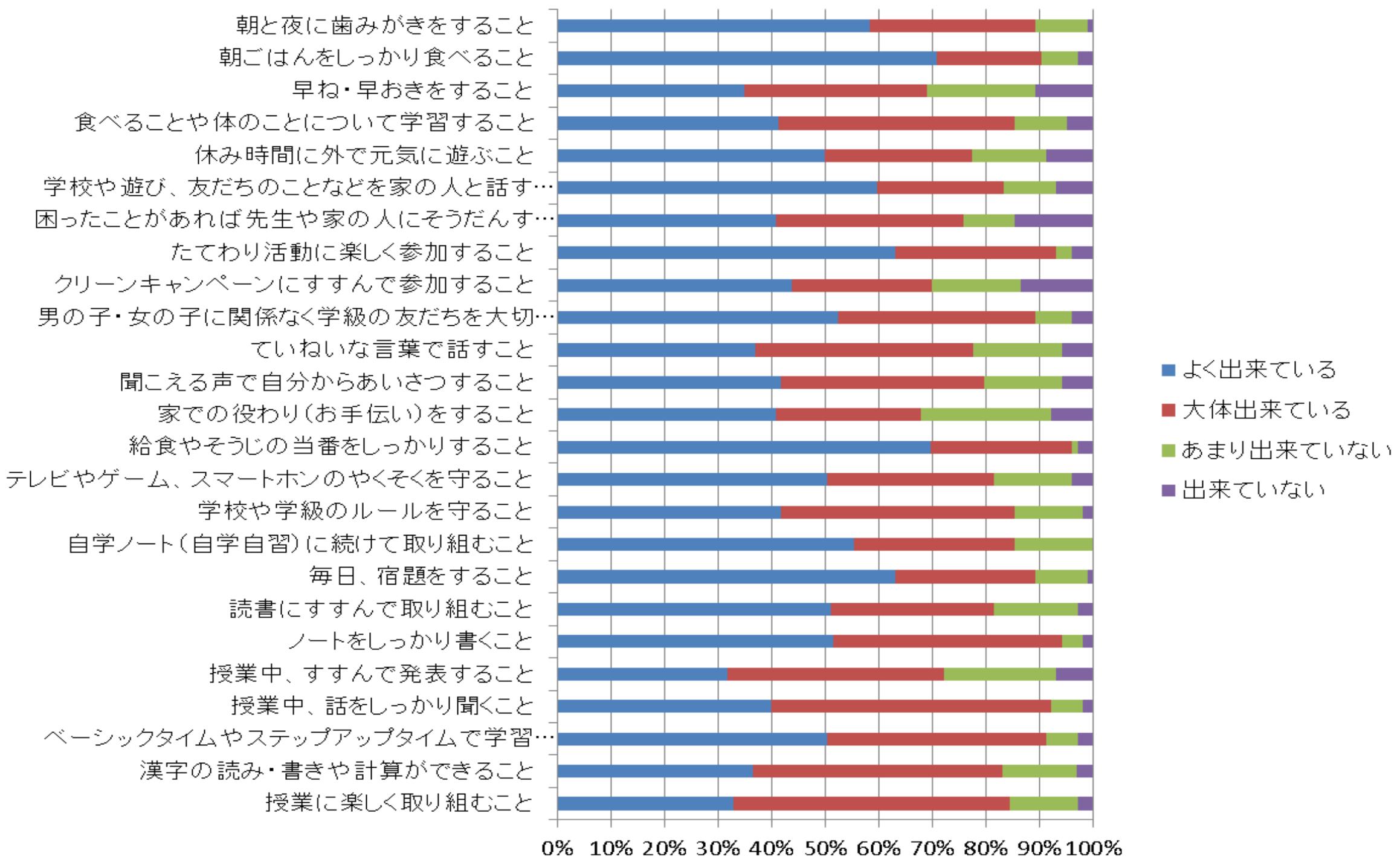
平成29年度 前期学校評価 教職員 実現度



平成29年度 前期学校評価 保護者 実現度



平成29年度 前期学校評価 高学年 実現度



平成29年度 前期学校評価 低学年 実現度

